

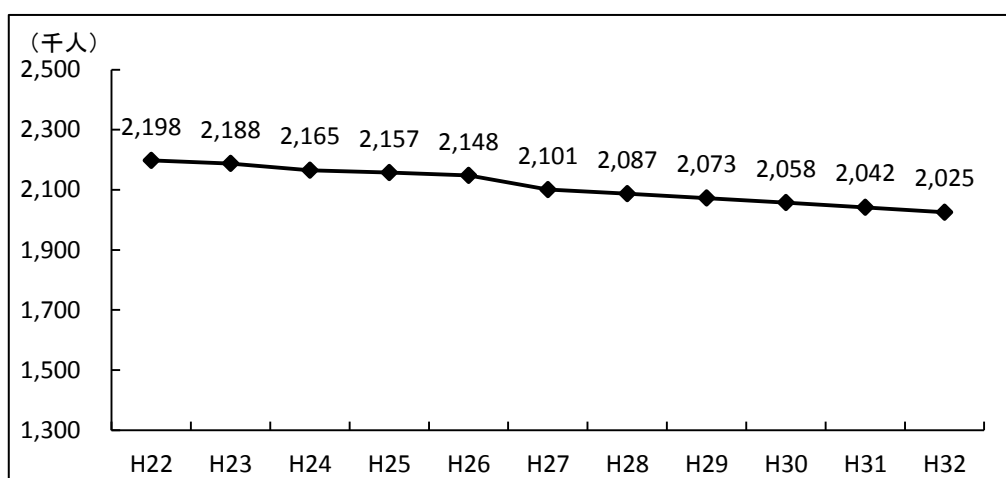
第2節 数値目標

1 一般廃棄物の将来推計

(1) 一般廃棄物の総排出量の将来推計

ア 人口の推計

一般廃棄物の総排出量のうち、生活系ごみは人口の推移に影響されるため、しあわせ信州創造プラン（長野県総合5か年計画）における長野県の人口の見通し（平成23年推計）に基づく人口予測値から、平成27年度から平成32年度までの各年度における人口を推計しました。



※ H22～26年については住民基本台帳による、H27～H32年についてはしあわせ信州創造プラン（長野県総合5か年計画）の人口による

図 2-2-1 長野県の人口の推移

イ 平成26年度の総排出量の推計

平成26年度の県内の一般廃棄物の排出等の状況を把握するため、県内の19市における平成26年度の排出量等の調査を実施しました。

表 2-2-1 19市における排出量等の調査結果

区 分	H25年度 実績値	H26年度 実績値	変化率
生活系ごみ 1人1日当たりの排出量（g）	607.6	597.1	△1.72%/年
事業系ごみの排出量（t）	166,706	166,819	0.07%/年

19市の調査結果から、平成25年度から平成26年度までの変化率を求め、平成26年度の県全体の排出量も同様の変化率で推移すると仮定し、平成26年度の県全体のごみの排出量を推計しました。

表 2-2-2 平成 26 年度の県全体の排出量の推計

区 分	H25 年度 実績値	19 市の変化率	H26 年度 推計値
生活系ごみ 1人1日当たりの排出量 (g)	602.5	△1.72%/年	592.1
事業系ごみの排出量 (t)	192,641	0.07%/年	192,776

ウ 平成 27 年度から平成 32 年度までの排出量の推計

平成 22 年度から平成 26 年度までの過去 5 年間の傾向をもとに次のとおり推計を行いました。

(7) 生活系ごみの排出量の推計

1人1日当たりの排出量について、過去5年間のトレンド（対数近似）から推計を行いました。

近年は横ばいの傾向が続いており、今後も同様に推移していくことが見込まれます。

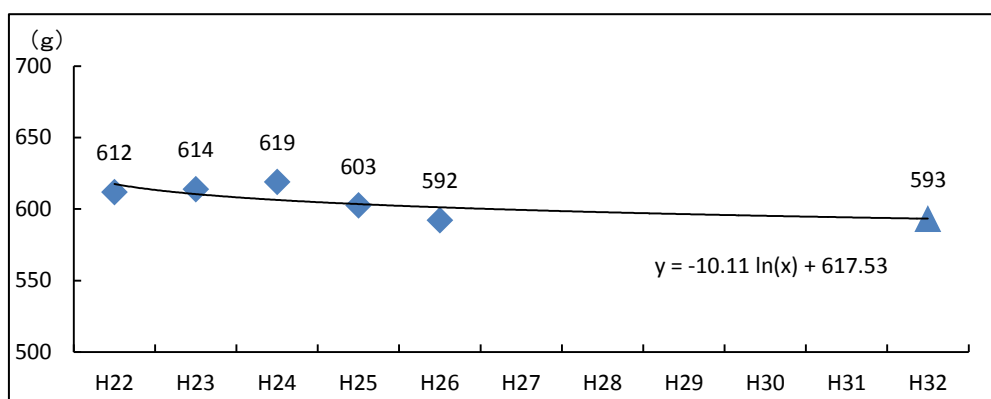


図 2-2-2 生活系ごみ 1 人 1 日当たりの排出量の推計

生活系ごみの排出量について、1人1日当たりの排出量の推計値と将来人口から、排出量を推計しました。

$$\text{生活系ごみ排出量} = \frac{\text{1人1日当たりの生活系ごみ排出量 (g/人・日)}}{\text{生活系ごみ排出量 (g/人・日)}} \times \text{将来人口 (人)} \times \text{年間日数 (365 又は 366 日)}$$

※ 1人1日当たりの生活系ごみ排出量及び将来人口は推計値

表 2-2-3 生活系ごみ排出量の推計

年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
生活系ごみ排出量 (t)	464,232	460,860	455,460	451,295	447,095	444,067	438,572

(イ) 事業系ごみの排出量の推計

事業系ごみの排出量について、過去5年間のトレンド（対数近似）から推計を行いました。

近年は微増傾向にあり、今後も同様に推移していくことが見込まれます。

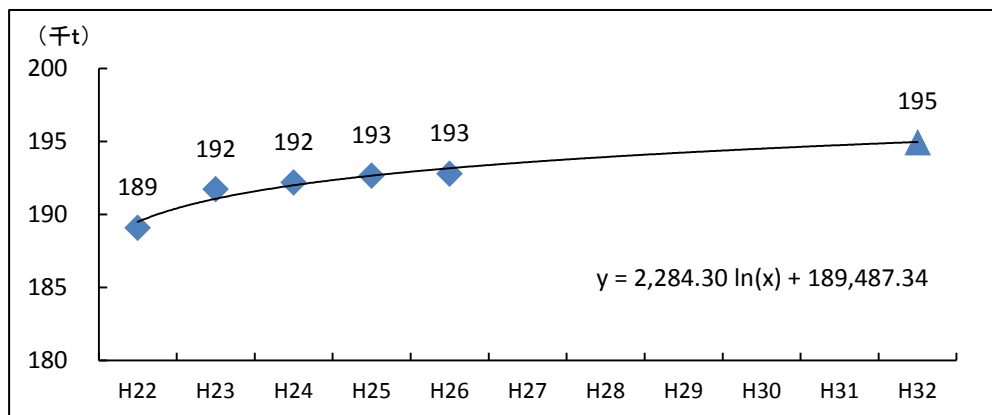


図 2-2-3 事業系ごみ排出量の推計

表 2-2-4 事業系ごみ排出量の推計

年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
事業系ごみ排出量 (t)	192,776	193,932	194,237	194,506	194,747	194,965	195,164

(2) 一般廃棄物の総排出量等の実績及びの将来推計値

(1)の方法により推計した一般廃棄物の総排出量等は、次のとおりです。

表 2-2-5 一般廃棄物の総排出量等の実績及び将来推計値

区分	年度	総人口	総排出量(t)			1人1日当たり(g/人・日)		
			生活系	事業系	計	生活系	事業系	計
実績	H22	2,162,034	490,795	189,066	679,861	622	240	862
	H23	2,153,171	491,535	191,714	683,249	624	243	867
	H24	2,165,212	489,141	192,176	681,317	619	243	862
	H25	2,157,449	474,470	192,641	667,111	603	245	847
推計値	H26	2,147,930	464,232	192,776	657,008	592	246	838
	H27	2,100,718	460,860	193,932	654,793	599	252	852
	H28	2,087,217	455,460	194,237	649,697	598	255	853
	H29	2,072,809	451,295	194,506	645,801	596	257	854
	H30	2,057,629	447,095	194,747	641,842	595	259	855
	H31	2,041,761	444,067	194,965	639,032	594	261	855
	H32	2,025,306	438,572	195,164	633,736	593	264	857

※ 住民基本台帳法の改正に伴い、平成 24 年度実績から 1 人 1 日当たりの排出量を算出する際に用いる総人口に外国人人口を含むこととなった。そのため、将来推計に用いる平成 22 年度及び 23 年度の 1 人 1 日当たりの排出量は、平成 24 年度実績以降と同様の定義により再算出した数値としている。

※ 平成 24 年度以降の総人口には外国人人口を含む。

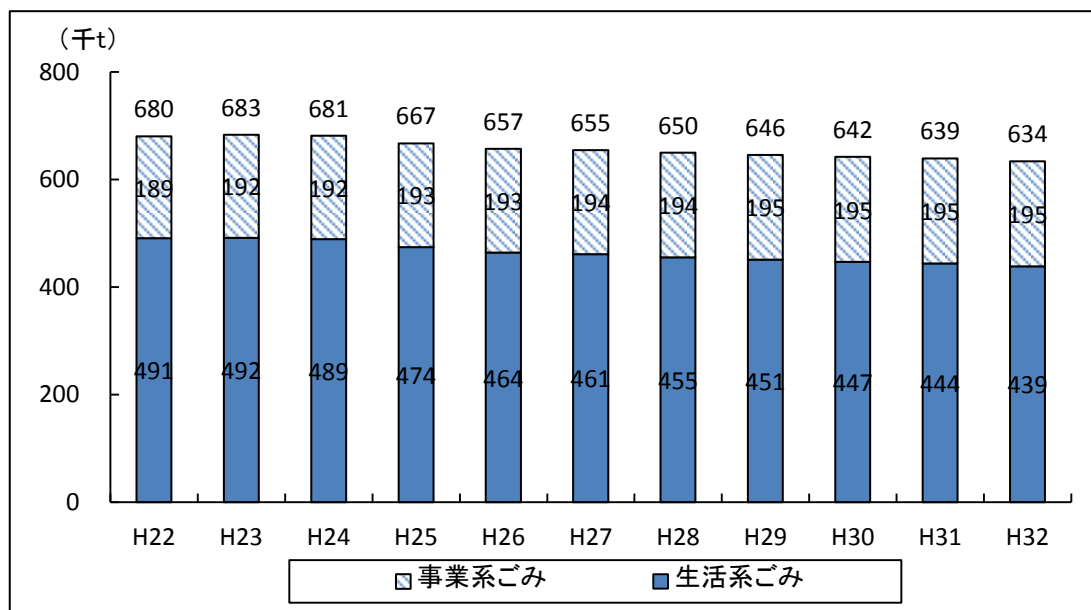


図 2-2-4 一般廃棄物の総排出量等の実績及び将来推計値の推移

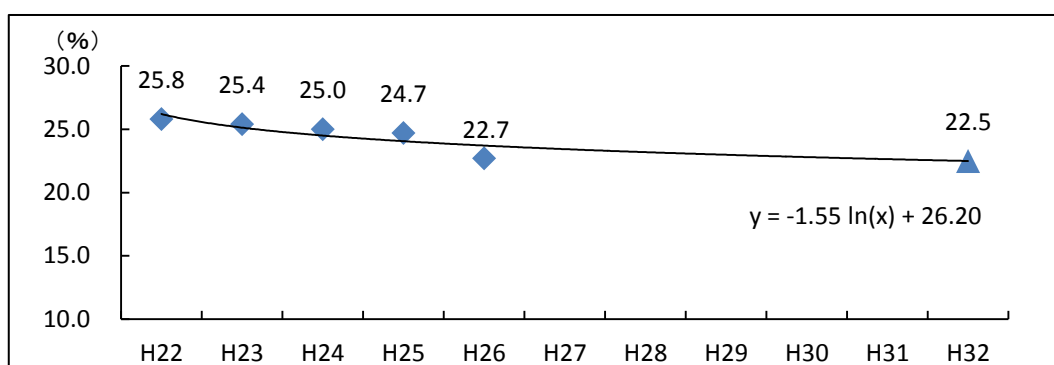
(3) 一般廃棄物のリサイクル率等の将来推計

平成 22 年度から平成 26 年度までのリサイクル率及び最終処分率の傾向から、平成 27 年度以降のリサイクル率及び最終処分率を推計し、推計した各比率に一般廃棄物の総排出量の推計を乗じて、平成 27 年度以降のリサイクル量及び最終処分量を算出しました。

ア リサイクル率の推移と将来推計

リサイクル率について、過去 5 年間のトレンド（対数近似）から推計を行いました。

リサイクル率は近年低下傾向にあり、今後も同様に推移していくことが見込まれます。



※ 平成 26 年度の数値は、平成 25 年度から平成 26 年度までの 19 市の変化率を平成 25 年度の県全体の数値に反映して推計したもの（イにおいて同じ）

図 2-2-5 リサイクル率の実績及び将来推計値の推移

イ 最終処分率の推移と将来推計

最終処分率について、過去 5 年間のトレンド（対数近似）から推計を行いました。

最終処分率は低下傾向にあり、今後も同様に推移していくことが見込まれます。

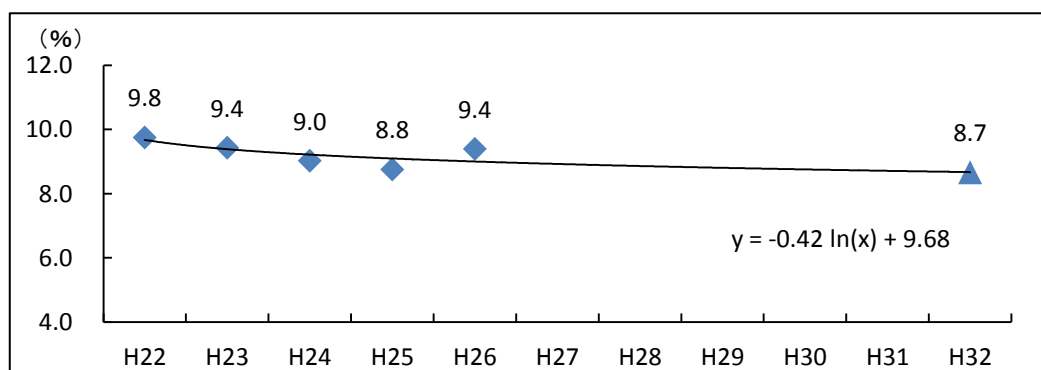


図 2-2-6 最終処分率の実績及び将来推計値の推移

(4) 一般廃棄物のリサイクル率等の実績及び将来推計値

(3)の方法により推計した一般廃棄物のリサイクル率等は、次のとおりです。

表 2-2-6 一般廃棄物のリサイクル率等の実績及び将来推計値

区分	年度	総排出量 (t)	リサイクル率 (%)	リサイクル量 (t)	最終処分率 (%)	最終処分量 (t)
実績	H22	679,861	25.8	175,486	9.8	66,316
	H23	683,249	25.4	173,335	9.4	64,462
	H24	681,315	25.0	170,706	9.0	61,517
	H25	667,111	24.7	164,408	8.8	58,427
推計値	H26	657,008	22.7	149,371	9.4	61,752
	H27	654,793	23.4	153,418	8.9	58,440
	H28	649,697	23.2	150,678	8.9	57,570
	H29	645,801	23.0	148,437	8.8	56,863
	H30	641,842	22.8	146,359	8.8	56,193
	H31	639,032	22.6	144,677	8.7	55,666
	H32	633,736	22.5	142,540	8.7	54,951

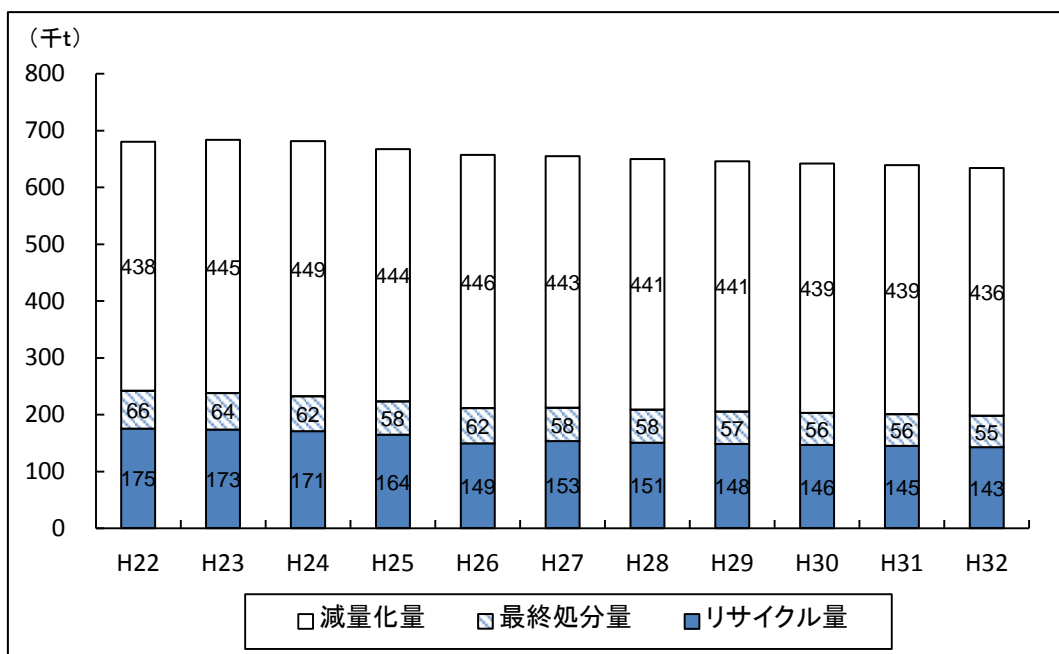


図 2-2-7 一般廃棄物の総排出量等の実績及び将来推計値の推移

2 一般廃棄物の数値目標

(1) 廃棄物処理計画（第3期）における目標の達成状況

廃棄物処理計画（第3期）における平成27年度目標値の達成状況（推計）は、総排出量、リサイクル率・量、最終処分量については達成困難な状況と見込まれます。最終処分率については達成可能な状況と見込まれます。

目標達成が困難な要因としては、総排出量については、減量化に有効な手段とされるごみ処理の有料化について近年新たに導入する市町村がないことなどが考えられます。また、リサイクル率・量については、小売店における古紙等の店頭回収の利用により、市町村の計画収集によるものが減少していることなどが考えられますが、このことは、県民にとって収集機会の増等の利便性やリサイクル意識が向上してきたともいえます。

表 2-2-7 廃棄物処理計画（第3期）の目標の達成状況

区 分	H22 年度 実績値	H25 年度 実績値	H27 年度 推計値	H27 年度 目標値	目標達成見 込み
総排出量	680 千 t	667 千 t	655 千 t	620 千 t	達成困難
リサイクル率	25.8%	24.7%	23.4%	30.0%	達成困難
リサイクル量	175 千 t	164 千 t	153 千 t	186 千 t	
最終処分量	66 千 t	58 千 t	58 千 t	56 千 t	達成困難
最終処分率	9.8%	8.8%	8.9%	9.0%	達成可能

(2) 廃棄物処理計画（第4期）における数値目標

廃棄物処理計画（第4期）においては、2Rを意識した取組により、廃棄物の発生自体の抑制を進めていくことを踏まえて、総排出量を数値目標とします。

総排出量の平成32年度の数値目標については、平成32年度推計値は63万4千トンとなっていますが、排出量の削減の取組を進めることにより58万8千トンとします。

表 2-2-8 廃棄物処理計画（第4期）の数値目標

区 分	H32 年度 推 計 値	H32 年度 目 標 値	H32 年度 国の目標値	備 考
総排出量	634 千 t	588 千 t	599 千 t	国の基本方針による目標値よりも11千t多く削減

3 産業廃棄物の将来推計

(1) 産業廃棄物の平成 25 年度の総排出量等の推計

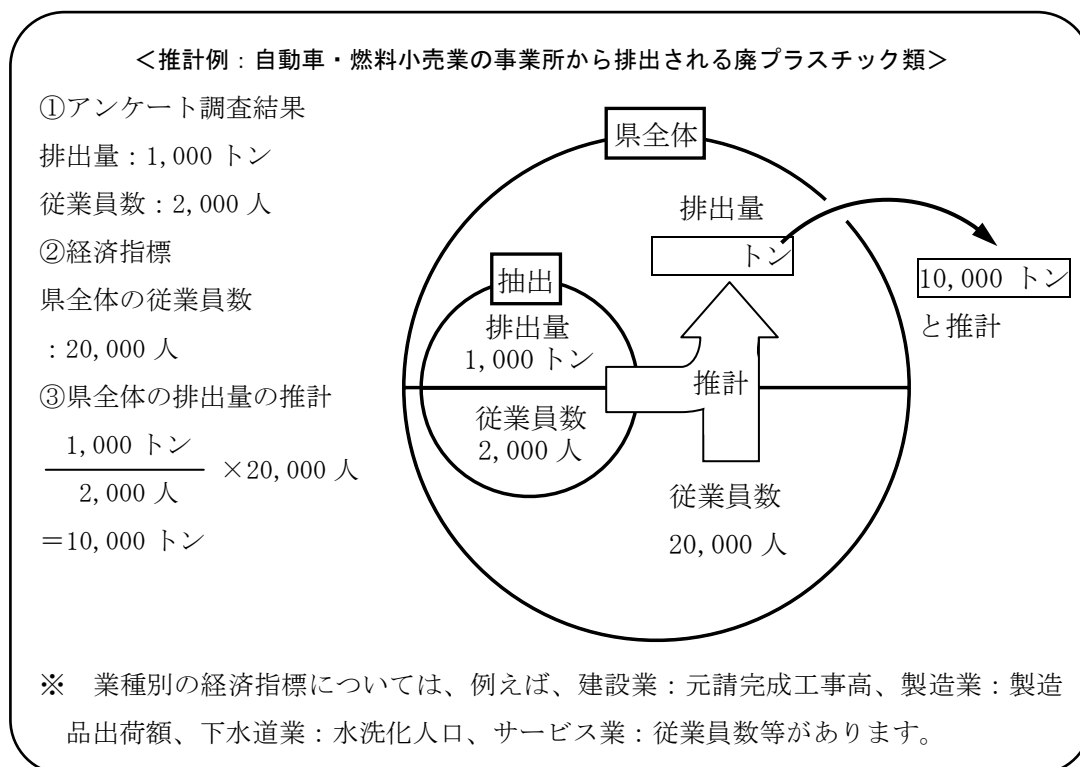
県内の産業廃棄物の排出、リサイクル、処理等の状況を把握するための調査（産業廃棄物実態調査）を、次の方法により実施しました。

ア 業種別の排出量等の推計

県内に所在する全ての排出事業者を対象とする調査を実施することは難しいため、業種別に抽出したアンケート調査を実施し、調査結果から得られた調査対象事業所の業種別の排出量等と、国の統計調査による経済指標等を勘案し、県全体の業種別の排出量等を推計しました。

イ 県全体の排出量等の推計

アで推計した業種別の排出量等をそれぞれ合計することにより、県全体の排出量、リサイクル量、最終処分量を推計しました。



(2) 産業廃棄物の総排出量等の将来推計の方法

排出事業者からの排出量及び処分業者における処分量について、近年の傾向が同様に推移すると仮定した上で、業種別に将来の排出量及び処分量の傾向を推計しました。

ア 業種別の排出量の将来推計

業種別の排出量の将来推計の考え方は、次のとおりです。

(7) 建設業

建設工事施工統計調査報告の県内の元請完成工事高の過去 10 年間の推移を勘案し推計しました。

(イ) 製造業

工業統計調査の製造品出荷額（県内）の過去 10 年間の推移をそれぞれ勘案し推計しました。

(ウ) 水道業

上水道業からの排出量には変動がほとんどなく、下水道業は水洗化人口の今後の推移を見込み推計しました。

(エ) その他業種

経済指標である従業者数等について、過去 10 年間の推移を勘案し推計しました。

表 2-2-9 排出量の傾向の参考とした経済指標

区 分	単 位	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	
元請完成工事高	10 億円	814	943	848	767	729	641	678	698	753	824	
製造品出荷額	基礎素材	100 億円	88	89	97	110	114	87	95	92	97	92
	加工組立	100 億円	427	453	456	508	455	323	382	351	325	325
	生活関連 その他	100 億円	88	84	83	85	94	88	86	85	88	85
水洗化人口	万人	—	—	—	—	—	148	152	155	160	161	

※ 水洗化人口の平成 20 年度以前については、集計方法が平成 21 年度以降と異なるため掲載していない。
なお、平成 25 年度の各数値は速報値。

イ リサイクル率等の将来推計

リサイクル率及び最終処分率は、再生利用技術及び減量技術の向上により増減しますが、参考とする適当な指標がないため、今後も同様に推移すると見込みました。

(3) 産業廃棄物の排出量等の将来推計値

(2)の方法により推計した、産業廃棄物の総排出量等は、次のとおりです。

表 2-2-10 産業廃棄物の総排出量等の実績及び将来推計値

区 分	H25 年度実績値	H27 年度推計値	H32 年度推計値
総排出量	4,341 千 t	4,366 千 t	4,367 千 t
リサイクル率	33.2%	32.8%	32.2%
リサイクル量	1,443 千 t	1,431 千 t	1,404 千 t
最終処分量	81 千 t	80 千 t	78 千 t
最終処分率	1.9%	1.8%	1.8%

表 2-2-11 産業廃棄物の業種別の排出量の実績及び将来推計値（単位：千 t）

産業分類	H25 年度実績値	H27 年度推計値	H32 年度推計値
建設業	1,009	998	970
製造業	1,117	1,087	1,082
電気・水道業	2,116	2,184	2,219
その他	98	98	95
合計	4,341	4,366	4,367

表 2-2-12 産業廃棄物の種類別の排出量の実績及び将来推計値（単位：千 t）

区 分	H25 年度実績値	H27 年度推計値	H32 年度推計値
汚泥	2,829	2,896	2,929
がれき類	840	832	814
ガラスくず等	169	168	165
その他	503	470	459
合計	4,341	4,366	4,367

4 産業廃棄物の数値目標

(1) 廃棄物処理計画（第 3 期）における目標の達成状況

廃棄物処理計画（第 3 期）における平成 27 年度目標値の達成状況（推計）は、総排出量、リサイクル率及び最終処分量については、達成困難な状況と見込まれます。リサイクル量及び最終処分率は達成可能な状況と見込まれます。

目標達成が困難な要因としては、総排出量については、水洗化率が伸びたことによる下水道汚泥の増加などが考えられます。また、リサイクル率については、排出事業者や処理業者における継続的な取組によりリサイクル量に大きな変動はあり

ませんが、脱水により大幅な減量化が行われる汚泥の増加による総排出量の伸びが大きいことから、総排出量に対するリサイクル量が少なくなり、リサイクル率を押し下げているものと考えられます。

表 2-2-13 廃棄物処理計画（第 3 期）の目標の達成状況

区 分	H20 年度 実績値	H25 年度 実績値	H27 年度 推計値	H27 年度 目標値	目標達成見 込み
総排出量	3,709 千 t	4,341 千 t	4,366 千 t	3,600 千 t	達成困難
リサイクル率	38.8%	33.2%	32.8%	36.1%	達成困難
リサイクル量	1,439 千 t	1,443 千 t	1,431 千 t	1,300 千 t	達成可能
最終処分量	85 千 t	81 千 t	80 千 t	70 千 t	達成困難
最終処分率	2.3%	1.9%	1.8%	1.9%	達成可能

(2) 廃棄物処理計画（第 4 期）における数値目標

廃棄物処理計画（第 4 期）においては、2R を意識した取組により、廃棄物の発生自体の抑制を進めていくことを踏まえ、総排出量を数値目標とします。

総排出量の平成 32 年度の数値目標については、平成 32 年度推計値は 436 万 7 千トンとなっていますが、排出量の削減に取り組む事業者を支援していくことにより、435 万 8 千トンとします。

表 2-2-14 廃棄物処理計画（第 4 期）の数値目標

区 分	H32 年度 推 計 値	H32 年度 目 標 値	H32 年度 国の目標値	備 考
総排出量	4,367 千 t	4,358 千 t	4,471 千 t	国の基本方針による目標値よりも 113 千 t 多く削減

※ H32 年度目標値業種別内訳：建設業 967 千 t、製造業 1,077 千 t、電気水道業 2,219 千 t、その他 95 千 t

※ 長野県は、農業系廃棄物等を数値目標等に計上していません。